

### 伊勢志摩で総会・懇親会

#### 「会員との交流大切に」(黒田)

JFE鋼板製品の関東・甲信越地区特約店で構成する関東新和会(中山聡会長・中七社長)は6日、三重県鳥羽市のホテル「グランドエクシブ鳥羽アネックス」で総会・懇親会を開催。正会員11社が参加し、商社会員、特別会員、賛助会員含めて計34人が参集した。総会では幹事会社・紅忠スチールの目黒雅之建材部長が議長を務め、中山会長、植松孝康副会長(植松社長)、小山幸一会計監査役(小山金属工業社長)の留任を決めた。任期は1期2年で、中山会長は6期目。関東新和会は正会員23社(1社休会中)、商社会員4社、特別会員1社、賛助会員1社で活動していく。次年度はカネキカナカオが幹事会社を担う。

開会にあたり中山会長は「東京で開催した前回、今回はリゾート地でやりましようと言った。沖縄案もあったが、この三重県鳥羽市で行うことにした」と話した。建設分野については人手不足や資機材高騰、残業時間規制などから苦しい事業環境に置かれ、2024年の建設業の倒産件数が過去10年で最多となる見込みだと指摘した。一方で「我々には強力な味方がいる」として「JFE鋼板を味方に、皆さまとともにさらに前進し、関東新和会をさらに盛り上げていきたい」と続けた。また、総会当日に還暦を迎えた和興スチールの柴田光一営業部次長を祝うとともに「私も先日還暦を迎えた」と述べ「お互い頑張りましよう」とした。



中山会長



黒田 JFE 鋼板社長



植松副会長長

賛助会員挨拶でJFE鋼板の黒田茂社長は「今年を振り返ると住宅・非住宅分野はどのエリアでも低空飛行となった1年だった」と話し、25年の建設分野はエリアごとで温度差が出てきそうだと展望した。また、加工性を高めた戦略商品「ガルフレックス」は「さまざまな問い合わせをいただいている」とし、引き続きラインナップを整えた環境にやさしいクロメートフリー鋼板「Jクラフト」との両商品の拡販に力を入れていく考えを示した。

黒田社長は25年度からスタートさせる第8次中期計画に

ついても触れて「35年になりたい姿を想定し、そこから逆算して練り上げているところだ」と報告。現中計では「引き出しをたくさんつくることに注力してきた」と語り、次期中計でも「皆さんとのネットワークを広げ、コミュニケーションを深めていきたい」と語った。

特別会員挨拶ではJFEスチール薄板・缶用鋼板営業部の川越潤部長に代わって出席した同・第2営業室の山道慧主査が登場。JFEスチールのカーボンニュートラルへの取り組みや、10月に公表したパーパス「ねがう未来に、鉄で応える。」を紹介した。また「建材の線材需要は底堅く、皆さんと暖かい春を迎えたい」とする川越部長のメッセージを代読した。

懇親会では植松副会長が開宴の挨拶に立ち、総会で黒田社長が大切にしたいとした「コミュニケーション」を取るの「これからが本番」と場を盛り上げた。紅忠スチールの柳井直樹社長が乾杯の首頭を取り、片山鉄建の片山隆之社長が中締めを行った。

#### 川口鉄鋼会、恒例忘年会を神谷で開催

#### 「大変な1年、攻めも守りもしっかり」(鈴木)

川口鉄鋼会は7日、埼玉県川口市内の神谷で忘年会を開催した。同会では12月が年度はじめとなるため役員改選が行われたが、鈴木康昌会長(鈴木三五郎商店社長)や副会長は留任となった。

冒頭、鈴木会長が挨拶、今年の鉄鋼業界の話題や商売などについて触れ「この会は毎回高い出席率を誇る。年末に控えこうして一堂に会することができてうれしい。今年は日本製鉄のUSスチール買収に関する話題が多く取り上げられた。浦安鉄鋼団地においても同業間での協業プロジェクトが打ち出されるなど、さまざまなことが起きた。3次店の業界でもオーナー企業同士が共同配送の取り組みを始めるなど新たな挑戦を行っている。こうした世の中の流れに遅れることなく、正しく情報を収集し備えよう。インターネットの普及で多くの情報の真偽を自分自身で確かめる必要性が高まってきた。攻めも守りも両方やりながらこれからの1年も取り組んでいこう」と話した。



鈴木会長

乾杯の発声で斉藤一義前副会長(斉藤鋼材店)は「年明けは能登半島地震が起きるなど、大変な1年のスタートとなった。鉄の業界景気は依然としてよくない。さぞかしストレスも多かるう。今日は日常の仕事を離れ、会話を楽しみ癒して欲しい」と述べた。